913
2
5

へ 5
913
2

二言抄巻之下

二　四季の調

四季の花ハ梅ハ正月雪の
内にもほころびそめ桜ハ
二月ハ不入程霞ハ
霧ハ三月ハ
霧ハ三月ハ
ものハ上巳ハ
ゆ也ハ
たゆるハ

春ハ部ハ
清せん
新し

日ハ
ま
を
乃
ま

きゆへよ屠蘇白散元日

氷様 同元日あり天子へ供し奉りてまいりて
そのむかうに一家飲
之一盃をうけ
盃を病をくすりみ葉を供し
不嫁と用とあり

腹赤親貝 元日あり元日ひやうすれ
いひくひたて元旦すて
みくうり九州肥後国宇土郡
長崎より景行天皇乃九州
節会をうけ供奉ハ聖武天皇
乃御宇にたまう

氷 元日あり

節句あり

白馬節会 正月七日小天子
乃あとをむきと
供覧すう事也さあ〜子細
まくし供たらう養すくわり
若菜 そくまうりと汁も
まくあり

たくひ
ひたくむ

薬菜摘 まくりこれハ難也
供たう易
とあり

せり菜 ホの七種熟みを
まくあり

子月 消もまくれう事あり
小松川も也

卯杖 ホ尺三寸あり正月卯
月也こをまれ鼠と化て

二ヶ儀式あり揚洗天皇より
はじまり給ひしともいへり
縣召（あがため）　正月十一日十二日官除目なり
外官とハ諸國の津ゝなき也
田舎をわくと　わか菜き
いふなり
踏歌　正月十四日十五日十六日なり也
踏歌ともいふ也天武天皇より
さしかへの綿　此衣数　踏歌の
時の　御薪（みかまぎ）　百官薪を奉る　正月十五日百
事也
賭弓（のりゆみ）　正月十八日
射手のつがひをえてまつる也
なまくこあらそひあそばされし
いふ事あり
松の花　初春よりある也松かり
松の緑　四月まつみどり
春也　きく松の

又とりハ　梅　花とむすびて八
雛あそび　梅ハ雛也
柳　あり雪ともむすびてもよし
あり
氷のひま　さく池にかゝり氷なり
のこゝ氷とすれてもよし
いふ
雪まじり雪　春なり雪の氷
雪の氷はるゝもよし
春たる人へきより　雪と絵へ御り
志のあれども　辺来人り　をり
しく弱きあれハ　をかしくいへり
不雪すこし　雪沢きられ
雪のやま八客なりとも　雪の影
張もきへきり
水ぬるむ　春なり
清みぬるむもよし
あたたかしやれむしれ
し候ハみな春也

當代 ゑ過うあるす 作保姫
秋祇うあるす 霞乃洞 院乃御所の御事也
春乃宮 きさのゝやうりうといへハ春日宮
彩年祭 二月宮 春日祭
二月上申日也十一月うもまつり
あり毎度の祭ハ初といへとすす
ゆへうまつり 大原野 二月上卯
日あり 佛生会
南祭 三月中辰の日あり 源河の祭あり
天暦之年うまれ 曲水宴乃
三月三日あり 鶯鳥あき

すゝ也 うゝ也 元日
暁乃とりあれ 百千鳥 ゝゝ也
ゝゝ鳥 千鳥 ゝゝ
春あり
白尾乃鶯 滝乃乃鶯 鶯のきゝ
といふ 羽ゝ也
ゝゝへ鳥 鳴鳥 うゝ
うゝ 鳴乃鳥の音 音鳴
ゝゝ鳥ハ初音也 ゝゝ
鶯ゝ 鶯乃たゝ
鳥 ゝゝ

やれ　若鮎　そそ鮎ハ勿論夏なり

若和布　夏草　夏草

小乃歌　若むしろ

そそむしろハ親なり　草むしろ　葉

つるハ　蔦むしろ　蔦むしろ

末のとう　蕗ハ

夏なり

なく　秋夏の歌　草　蕗

とう　無　すれハ　みなもなり

す　塩　すすき　蘆

角ぐむ　ひとえ　勿論

すられ　ひとえの新芽

まれ　函草　丹あれ

と泊　ふうう　狭乃焼原

草　焼野　と　細やく　の

歌　はまも　たたう

小田ゆ　はまも

歌　月乃あ

あ　流

たと　東風

東風乃風　東

おみな　雅也　流年

も　雅儀

著也　広沢　沙汰　乃

月也　同

己乃月　乃

鳴乃

妙ほ しらけ又れをゆる
也すれハ春と 鳥乃ミ 同し山よす
ひかり
鳥の脇へ流れとりハあすハ若く
去れ為ゆへかけに不成候と
鳥の内へ入 春よりも絵目出ん
らわくゐ入らへる
雁かへりすれハ春に 指印
おとに他准し
乃霜 ありしにも落てむすひ
てハ春なり
梨花 むらく梨ハ雑也 これ
正花也をも秋の物さも
さくら
折ても
花かつ 同前 ちるもの春ゆる
むの咲比疫邪を数して人を
ゆやまはゆへかれとてやん
藤花祭

たわし
あり 花とハ春葉ともむすひ
ありても春也青葉雑
春なれ也春の葉をむすひて宜
也其許うも又入
詞乃花れ 春にあらはとて下と
今京都に春の用也
心の花 も正花なれとう入抱て
二句嫌也
すゝみ花 も春とらて
櫻だい うへ抱てわくは物ゆへ八
又櫻戸のたいのことなり
櫻貝 同じおちて名付て 櫻田
春とらて
うへ抱て櫻のたね花さくと言也
遅櫻 春とらて
ても春也 ちるといふ
とう花月
月いておもねはいえとさ
日のうけるといふ句

とし春也　ゆくらかさ〇春也
うら雨乃くもりなとゝいふ時は此のミてすへし
やらよう　霞　なり霧とまかすへて
ハ春也此外の数二季よ
のうるり流よ心まりひろきく
その季にわり池などにおほ
し霞ハ春にして霧秋の部なれ
ともに春も立なり和漢ともに春
みもいひなりし句り我れハ霞の
かくうつしれりまつにするおら
地涯ハ　かすむ　とも云詞春なり
し　かすむ　なりとハいへと
宵柏乃るうりいくへ抱いひらすむ
らんなとも春のるなりわそうやうの
詞ハかおひしへいそその季なり
なるなり地涯し
み　なとりれ子すむ　にて
　もし春なり

らへなり三とも絶えおりとも有りり
なとしてもまるなり
三冬に於て春ハくれとも
なとしてもまうへてミ哉
まるなり
なにの詞も　春なりかまに
まるなり
わすれや　地涯し
なりしても皆春也
春すきて　なりて同季なる也
四季ともに用
られ季なる
趣し

夏

更衣　さつき五月乃朔日乃節句一日
の事なり
納涼　夏なり名とゆうすゝみ
可随其季ニ

大祓さうり　四月上卯日也
鵜殿まつり　二月鵜殿祓ありおなじく日ありて
平野祭　四月上申日仁西寺いまくひまつらる也
松尾社さうり　同日ありて
廣瀬祭　四月四月ありて祓ありて
うちわり水と風との組をいとりて
たまつり　祓ありて
灌佛　御願の舟屋うかれ出て
山と他り仲のはんてのおきに
ものの流れあり
吉田まつり　四月中れる日也
日ようさうり　四月中の申の日ありて

賀茂祭　祓山のまつり　賀茂也　四月中酉日也
賀茂社さあひ　四月祓のまつり
あまつひ　筆こき挿こともろう
はらいさう祓山のまつりにあひ
ありて賀茂にはは上八月宵祓
也　掃取　又ちきさうこれ
あしたに　若葉うむて
ひてはなあり
若葉うむすい　揺うち揺
てはなあり
くいなあり　卯花　まあり
花うむすひてもなきこれ
夏あり
郭公　夏あり

あとよりす鷹鳥　うかゞみれ　鵜鳥のことを
かゝや　鳥屋鷹　咏
鳥乃巣　水鶏　水にすむ也　水とりの也
鵜川　乃とらへをれ鵜ハ雛のうち　ひをしれ鵜ふるゝ也
天河　う舟の羽く　もみへきや　鷲狩
かのこゝろすと　かりの手や　孫ゝひとり
照射　ともし　なかり　さつおゝすとの影に見れ
鹿子　なり　かくしけしの影同じ
鮎鮨　夏季ものなり　ハ秋みるその季也へ　ハきゝけひ鮨
真梁　やみ　うけ　なくいろなり

菖蒲　あやめ　ありとうてみくいつひ　南も水邊なり端午
　うつ六府わやよのうしと南殿の
　そして六南東うするならうなそ
　わかとしうり
すゞ玉　いろの糸
まうれぐわ　ものなり　木乃若葉
葉末　なり　わかち
華代　うらのなり葉ハ
橘　とことよの花なく　若楓
　わらとよなり
若楓ハうへのまゝ　常盤木乃
　うつゐものし也
落葉　木乃下やミ
夜かり　わかれ　草木　よりかふ　しきの
とふみ　うらひ　茂里あふ　林の下　そうつ

[illegible]

同 鶴乃草 菫 [illegible]

[illegible]

夏 蓮 [illegible]

[illegible]草 [illegible] 離

[illegible]

杜若 [illegible] 和布 [illegible]

[illegible]

夏 海こもり 同 [illegible]

[illegible] 濱乃苑 [illegible]草

[illegible]草 [illegible]

同 水草 海松 [illegible]

[illegible] 田草 [illegible]

[illegible] 葛 [illegible]

苑 [illegible]

[illegible] 梅雨 [illegible]

夏也竹の [illegible]

葉ハ雜 [illegible] 若竹

[illegible]

雲乃峯 汗 薫風

[illegible] 氷室

乃雪 なつ中しらくも 夏なり
はちへなれ祢
醴酒 六月一日よりあるなり也又 ひとよさけともいふなり
祇園会 六月七日也祢の代かハ 八坂の里とぞいふ八
君が代ハかうそへてむかし八坂 乃里祇園の社なり
涼 と云詞清き事にいひなして凡詞 下涼 なりけりいとなし 凡詞 下洛
なし 出て納涼なして なりけり
り 下用なり
清水 むすふもせくも夏也 清水ハ雛也くむといふ 泉
まとも夏なりハ なりともいへり 泉殿 清くなくい
汁も月乃涼しき 夏也
露涼し なれとも 夏なり 秋乃蛍ても
夏也 秋なりと云説あしくこれ乃
理よくきこゆるものなり
明辺乃さ夜 みじかき夜すと 八別に不及哉
こよね妹 秋ちかき秋とまつなと見かこれ
夏 みなか月 ちかくへ のことし
御祓 六月晦日也 祖母日乃ころ
ぞあり月なくしかよめり夫かさハ
晦日とこふ祓なりたてし乃 掃
葦乃輪すなはちあさの中へて
てなとこれ祓のことや
百官朱雀门より集て
なこしのはまし也
秋
下 十一

一葉ちる　一葉衣たく一葉とつくりも初秋なり

柳ちる　初秋也　柳相をもちらすもしつ

もの也　桐乃ち落る　只桐も秋なり

石木ちる　行きても秋なり　初嵐

もつ物ハ秋よりあるもの　扇と団　涼暑ともに

秋なり　星合の夜　星まつる具なり

別に不及　物ども

乃蟲

なつ也へ　紅葉乃樹　天行

位なり　ものへ初もみぢすれ

いろ　天川　舟なるもしつ

て秋也　只天河

八月十五夜也　雜也　河辺にあり　逸風

なるもの　星のあひ

あるもの　匂　巧奠　星をまつる

涼秋也　乞巧也

入て　星のあひ

天手膳　宮中

まつる　水を

乃いと　とんぼの行り

糸とうけて

もの　星すり　妹去衣　七夕の具

年　七夕の

七夕の　年也

盂蘭盆　鳥屋

おれ　鶯　初鶯

初鳥　特　小鳥

鶴

このりれとの新小菊 鷄とりの白
みふ状なり
名とり宮のへとも状也 小鷄と云
河ぬ子成へし 名たかりかし
いへハ白海 小島ちうう
ふり
状なり小島とりとも状なり
翅とりとも流れ
亀島 ふうう千しくの
多るの事なり
鵙乃草堂 沢ぬ堂 丸いなり 鵙
衣 そそみうう紀衣の事なり
紀生新とうり紀生まとりり
ゆへうり生新
二白嫌へし
状なり 世界
たうの受師流ぬりね
みさ山祭 七月廿七日なりみさ
山祭の事
なりも

りやけうかなとも 山祭うり
すりりやのうち也
相撲 七月廿六日百合 同廿八日
也 抜出 同九日也
年中行事に
多細なり
八月廿日
なり 小野祭
萩戸 同 抜ちう 桃園娘
うり清流敷の 敷敵もれと
八前の用ふ わうう所ふ
笹蘆 蘆 同 二つる
とり初に 不ム敢 千時と
状なり 蔦葛 蘭
行きて状なり
石う勝汁 それぬり状也草
すれちう 状なり

濱萩　おなじ　水うけ草

水氣を毒性也

毒性草　毒性草　毒性草

の章　宮治の花園

生敷　八月八幡の　芙蓉花

八月八日　八月十五日の事

八月十五日

作濃の物使の駒事し儀式有

おみな八月十五日

甲斐駒事　八月十七日

武蔵駒事　八月廿八日

上野駒事　八月廿五日

月はなの花　月はなの花　月はなの花

月の都　みやこの外

月は桂の花　月は桂の花　月は桂の花

月日　但月は月の月日

月日　月日　月日

早月夜　月のやよひ

盃の花　秋

中上　秋

まつよひは秋也　月待つ日を云
心也　夕附日は日の事也　秋に
あかれ　いなおほせ鳥
たのもの雁　田より来る。嫌なり
かりがねさむし　としても秋なり
雁　秋なり　小鳥をともいひて
待つ雁　秋なり　小雁の待つ心をと　一向不渭也　しちにのこ
つまてとまく分心なり
かへれとして秋なり
鴫　いくもなし　鴫の音あり
鷺　鴫ならず
はしきと云ははもいひては
秋なり
楸　秋なりけると
しても秋也
櫨　はなくは　お絶嫌し

椎　秋やしろなすと云て　みのさき
おまれは秋也　すなは桃杉と
云ぬ不鴻ぞく　秋なり
椎の実も秋也
楓　おもとれかしても秋なり
ゑのこ　秋なり
　　句揚秋なり　熟列のものゝ
梨　實は秋也
　　花は春なり
　　秋や　梢とかり
　　は雑なり
柏　ちるはちるとに
枕　秋なり　それ山もとへは
秋は桃すと云流れし秋は
う康録
秋の宮　きれ花の　はうし
　　伝事也
め　八月十一日宗
　　又乃除目也
きう乗の　野宮乃御様
葉具

[illegible]

やま [illegible] 鳩

鹿の狩人 [illegible] 一統 [illegible] 秋

[illegible] 鮎 [illegible] 蓑

篠 [illegible]

秋 [illegible] 御燈 九月三日 [illegible]

秋の物 [illegible] 天子の御辰

[illegible]

重陽宴 菊花

酒 [illegible] 儀 [illegible] 菊 秋 九月十

日 [illegible] 菊 伊勢奉 [illegible]

九月十一日也 伊勢の海の波の [illegible]

[illegible] 所に [illegible]

[illegible] 田草 [illegible] 秋の

[illegible]

月草 露草 [illegible]

[illegible] [illegible] 秋

すゝしの [illegible] 野山の [illegible] 河

秋 [illegible]

みの秋也 霜 [illegible] 田 [illegible] 云

悪草 秋也 霜の [illegible] 鹿

[illegible] 小田 [illegible] 秋也

[illegible]

[illegible]

はなにすれハ行きて挂抱り　二
句嫌や
かるかやの華の文　なとしても　秋也名草の
ことハ名なれとも花とに文の
のやうに見へてハこれ秋とうなや
萱か軒端　秋也秋としられ
秋とおもへとも秋の心なれとも
し　胸の霧　雾の香也
秋峯の也
しうかの身に
しむや　ちる秋
句編也　是ハむかしよりハ作せ
きちりし秋の夜なし
秋にむかしより　ことさ
とのてハ名なりけり
さむきも　冬さゝ　其年
秋なり　とこそあれ捨

是ハ秋にて地すくなき也　不審也
只むかしより秋とさへきり
露霜又霧の関　如此二文　作りさて
ハ秋や作るよするに一句の内に
むかしより用ひきたりハ旅也
露霜の降むすもれらひて
をも　秋なり
夜ハ袖に霜なとして
をも　秋なり
かゝれ文や松の一もと
なしと云句の類秋之名とも云字
入てハ大略秋なりけり
ふすま
衾　露のかゝれむすひてハ秋なり
但霧の外そてハ冬にもなり
しくれ
時雨ちるらんとも冬にもなりて秋
やうに句編草の類あり
紅葉のちるハ冬なれとも霜とも
雪とむすひて秋也

此山の名あらしにちる紅葉
りしかりのなり
なとして散るをいふ 冬に成
へきをいふなり
もみぢの名残 拾遺 冬
とし秋や冬ともいはまし此山の
そのもみぢ秋なり
もみぢ川ちる 木の葉ちる 冬
に秋
也
あの川落葉 すなはち冬
くちらう 落葉のいふ
うつ雁し
ちりても冬ともいはまし
秋なり
源氏松さむき 松風 冬
句も秋也
他准し 秋よりはもえて

瀧の山 なそこも同じ 秋なり

冬

十月更衣 朔日也 夏の衣 冬に同じ
ねり衣初時雨 初霜 冬也
あまてかりなり
むかひて八ツ時川霜とも冬
秋なり
閏のくれ 陰月なり 但二る
玄猪 十月 亥日也 残菊宴
同月 紅葉のちりて 秋とそもみれ
なり
冬也
ちとも もみぢの冷ても 同
拾葉 あるに霰 冬とせずとも むすび くれ八秋也 此八冬也

まつのは　まつの
葉衣　枯るゝ柳
ちるといふハ　末の葉の落る
冬也
紅葉のちるもいねることゝもと
紅くもこれ冬なるへし
枯草かるゝ　何も冬なり
雑すへきこと
の枯あひ　華　なしのくる
なるへし　冬也
花も紅葉もすへてひとすぢに
これ秋の部に入なり
かれくさ篇の葉
なかむひても冬やうる落葉する
うハ替るへし
月かさゆる冬や何やうに
枯なり

月には志あて　冬也
月の霜　冬なり　霜の
降地也
ときゆふめも冬　初雪見参
桓武天皇延暦年中より
としまる
ゆい霜のときゆるとして　冬也
霰さゆるみなきこと　同み
まつれ雪　冬　淡雪
同前　波の雪
ゆきのとい川雪　とハ冬なり　用也
三それ　霙　霙のしかれ　ハ冬也

[illegible]氷 [illegible]
[illegible]氷も同じ

氷室

[illegible]
[illegible]
新嘗祭 十月中の卯日

豐明節会 十月中の辰日也 [illegible]

[illegible]
名也

とよのみそ井 大嘗

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

小祭 於[illegible]所の祭也

寛平[illegible]
[illegible]
霜月中酉日[illegible]
日月[illegible]

陰糸 [illegible]
[illegible]

小忌衣 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

神楽 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

氷室 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

氷みくらの名也

あつさわすひ　同前

埋火　衣くばり　冬也　雑之

ところ絵あしくと　網代（あじろ）　かりかれとすれ

以り

そう稲　冬也　市川済南　氷魚

鷹狩乃數これ　冬なり　鵜揚の

維ものこれ鳥お又とさけひと

うち山田のかりつかねすゝろ

鳥とし‥へ草その木をある網かゝる

乃道具あとくもと冬也ミ乃

野のまさうしえ又とやこや八月又

狀のすゝめりとよより宮女と

ことにむろし

きくのなり　あちれもと

鳥　千鳥　霧ともむすひ霧と　むすひて八狀也

ほくの火　絵ぶりなり

うは火　同前

衾　勿論冬なり　綿　同前なり

内侍所御神楽　十二月十一日

荷前使（のさきのつかひ）　乃さきのさく　なるゝよめり

十二月十二日　佛名　十二月十九日より

三日乃間也佛の名をよめる

よめり

年末三疑　あとの數

なうの年　ゆく年　

春をとなり　ろうそくされと　みな冬なり

二十二

節折 十二月晦日なり

いとのわりの命婦なり

なくなくて天子の西さけ

まくの儀式あの祈うけ

りうとよひ仰ぎまおぼさ

西へう眺しく祈代より

僧名 同月あり鬼やらひる

やうふこもとうり

桃のう竹に矢ぶしうて祈

鬼とりうすうこうし

年の内に立春 きさらぎ

冬なり

斉うう言葉

祈なり

ロ 地震 地震

りて河内

山城うう

熱田

搬物条 一ゝ分う七十五度

榊 熱田 榊 夏也 わる改う新也

宮原の宮 地祇 茅原

氏神なり

源しき道 拾遺のうう

新なり

法の中うう

ある

黄泉の

神也

心の内 人作物

のう也

作日やつ

ゝ河内日

ゝ祈うう

ゝ雑也

天のうの紙 稿 いかゝ

[illegible]
[illegible]
雜

雁鳥樂

[illegible]
[illegible]
雜

義農山　石川　葦垣
葛木　真金吹　[illegible]　[illegible]川
奥山　[illegible]　[illegible]　[illegible]　竹河
山殿　河口　倉垣　[illegible]山
淀山　田中　井戸　[illegible]嶋　婦門
大文　長洲　[illegible]　[illegible]
総角　[illegible]　[illegible]　貫河　[illegible]島井
東屋　走井　伊勢海　蓬生
吾門　大竹　[illegible]　天道
[illegible]樹　逢坂　[illegible]　[illegible]
西寺　鶏鳴　雉波　海淀　[illegible]　[illegible]
[illegible]
物の[illegible]　[illegible]
[illegible]
雜

藤壺

[illegible]
[illegible]
雜

[illegible]
[illegible]
[illegible]

木の葉は霜に冬ゝれて落し 同前 雜

山橋 笠をかり郷する也 雜

藤 蓬 浜藤 雜

紫 雜 花と也すひて花也

白菊 花と也すひて花也

いけまて 簡 なとゝろ

笠はて 雜

野の草 作る田

野の花 雜

[illegible]

波の花 白の春の[illegible]

野遊 雜也

志賀は山 同前

霞の関 笠川は雜也 霞は

白浄土也 他准し

清水 雜

水鳥 雜也

[illegible] 同前 時雨

鴻 鴈なとの數は雜の鳥數不定也

同前

鶴の巣 同 おの

鳥の巣 同 うれの巣

雜

雜

雜

廉の園 佛名院と流絵

雜

雜

雜

祈山　野宮　鵜の
羽ちきのうち
板机　炎　焼屋　大内うもわう
遊炎　いさり
ゆふたすきの額
うゑへの小原ゆかた
小原家の新　東遊
歌ゆ　山母ゆの新
いるゆ　ゆ
ゆへ　御殺

以祈祭うひ初事
韓祈　水流
前帳　うひ初の祈祝の
六　釋教　彼岡の
うくの新引うう不女
紀し
鷲峯　鶴林
我立仙　彼宮
室乃戸　家を出
開ゆ　三車
三世　真曉

一夏こもり　みそ一夏と申ハ釋教より出たる
むすぶの雲　夢打
衣玉　山伏　二月廿
別　六道　胸の月
心月　樵夫　しきみ　石ずゑこゆるきりくれ
ゆゑ　釋教なり　紙　要ず
ホ勿論釋教なり　ホ勿論釋教なり不ス知
なと別ス

七　迷代一百迷惑　迷惑とハ
迷惑の心なり　うすり月十二
月の月成ル　ハ月十二
月の月成ル　ハ月十二
月の月成ル　ハ

命なりと白うしろやし忘り
を感ぜへり

十二月に　白髮

秋鈴ひびくけゆき

なくの　古今道

數

境の新のうしろかちいふ

ぬしは　ぬしとうやつさ　てり迷

懷さうしろ　ハ釈教ぬと云り

八　哀傷

寢乃岩　塩干山

山八寒　白うしろへし

かへらぬ道　ありしかう

哀衣の　數　世を石乃煙　古抱

ふしらの一ふのあさ

ふりのうすや

古今哀　哀ふり迷懷ふり迷懷

哀の白うしろ　なりうりのあり紙ハ

迷懷のうしろ　ふすひくハ

ふりしかて　うしろ　ふすうしろ

うり迷懷の白紙せうしろ

ハ哀傷ふり　ハ哀傷ふり　合せ歌かりて

九　山顯　峯岩の

不皮敷　數別り

山姫　山人　仙人ハ山數

あり

やまなし　山梨

[illegible]の数　山[illegible]

[illegible]白川水の せきあり

伯耆寺　[illegible]在山関山[illegible]

[illegible]

伯耆の嶺　山数あり 系紙

[illegible]

今いろりかの[illegible]

意の山　依る不一[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]山 [illegible]

瀧 瀧津と山歌うたひあるは

瀧川 清水の宮 雪丸山

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
浮鳩の原　鴻國
[illegible]
室ノ八鴻　水色[illegible]
淡路鴻　山[illegible]
河鳴　[illegible]
[illegible]の関　[illegible]
同[illegible]ノ宮　[illegible]
海　吉野ノ[illegible]
芳野　小野の奥

小野　[illegible]
[illegible]の小野
[illegible]
[illegible]の野
小泊瀬　[illegible]
[illegible]の松
おち瀧津　瀧津瀬
瀧津川
岩橋　蓬の山　[illegible]
拙人　炭焼　人[illegible]
氷室寺　[illegible]

薪　素木　長櫃
朱の丸　二合　山鳥　猿　その数竹にとれ
あり　あり

十　水鳥　舟宮船の数八除く
恒吉の井　水色あり
とり　地名あり
数生　紙あり　生の中に
二合
用物　すよしの水
三輪　松ばき

須广　郡の名とも
うつ水色あり　山ゆい郡の名とも
水色あり　あり
雑波津　たくあり
水色あり　清見寺
名所の川河　浦小
名所の関　とハ清見寺の
関水色あり　実ハ水色あり
海士小舟
川を山　ひあり水色
漢　方海れ色あり漢流と
ひのてい山鳥　水色に
もあり
田養鳴

三嶋 摂州の三嶋也

海きよ嶋 志賀の浦 松

なとといひあれ水辺なりそこ

志ゝ水辺なりわ[illegible]

水辺なりいかさまいかなる

所にて用て[illegible]

所絶水辺也 水宮

松嶋 出羽

御授 水辺なり水色に松を

出羽の続なり

海 舟なとに用て[illegible]

舟なり

浪の花 わらはら

田井 手洗の水 いひて

[illegible]水辺

千島 水辺なれとも水[illegible]

伯耆なりのあり

浙の菖蒲 あやめ浙

[illegible]

[illegible]水辺也

[illegible]水辺也

[illegible]海ゆ水辺也

[illegible]

[illegible]藻なとの類

[illegible]の水草

[illegible]

[illegible]

[illegible]

姉が遇分 あるまゝ 仰せられ ても敬し

雑波 日ゝ ゆく水

志賀 日前何よ郡の名ゝ ゆへあり

ゆみとるたゝ ゆみとりひてもれ 迫ゝ姉

伊吉 とゝゝ 姉を 迫ゝ

伊勢ゝ ゝ 日前

横川 加海山 数ゝ 須広

うへ野 あゝの 器

霊津 ゝ原

打蒲姫 大井の山

浮嶋ゝ原 白河 若園

山数 ゝ 波の尾上 山数

水迫ゝ ゝ

洞川 波のつさ 姉水迫 名迫

名迫 ゝ 波ゝ

渡川 ゝ 数川

天ゝ

夢ゝ

笠や 笠屋 あ穴 行も 姉

水辺 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

なをしらんかぎりは
只うかきひ一ツ沙
也以上うれれ迎う
わるしも

十一 体用之事

山類体之分

峯 高山の嶺 山嶽

岡 洞 尾上 岨

森 麻 坂 谷 嶋 この外山

うすかすかの事
なしも

後岡 筥 塚 なしい家
体用のうち

なるやしらの世
体のうち 人世界山数

用之分

滝 杣木 材 炭竈

水嶋 体之分

海 浦 江 湊 堤 渚

嶋 奥 磯 干潟

岸 汀 沼 河 池

泉 川 渕 激 瀧

用之分
なるやしらの世界

波 海 塩 砂 宮

渡　手洗　虹　雨伽羅
清水　なくてもひても用や
休用し外
浮木　船　流　塩屋
塩焼　この歌　樋　才若
菖蒲　菖蒲　葦　蓮
真薦　海松　和布
藻塩草　萍　海人
奥　網　物乞　筧
下樋　筏代　千鳥

水鳥乃類　水と云ものあれとも用ること多
す竹上体用乃ものあり
居而体之分
軒　床　屋　窓　門
戸　樞　葦　簀　隣
垣　竹上体也
用之分
廊　外面　簾　関屋
二白蛾りの八体不蛾関乃
扱ひ　れ　ら　も居屋
二白蛾
あり　又　宮乃戸　文居寺家を出

[illegible]

雜物体用之事

假令まさらつかうと付て
又打久保をそれと付へくれ
こは用なるゆへあらしく来こハ
付やし足体なるゆへあらうち
うつ祢ゐくくうえさうくくと
長くいう白うえ縄と付て又
短と付へくれられ祢るゆへ也
くくひくくゐくハ可付くあれ羽
ありふよりみ[illegible]ふ[illegible]ゐ辺
某受師院作くくうくうハ
祢ゐくり打くゐとして本来長
短くれ用ゐくり或自すくう相
逆ゐくりゆへいくく

又 いくく 拙曲也

数おうのあいい付きゐ二白つくく
ゐくりくくそそ祢用の沙汰あく

[illegible]

地ハくれ三白足をはくくへし
三白はくくんたちの祢羽也
假令假くして浦と付て又
なくくくくくへくくれ用の中
うう祢へくくれるゆへゐくり宮北
鳥舟ゐくれられくの体用の沙蔵
地くて付て[illegible]ゐ若別地ゐくり
又体の中へ用をいわくてあくひ
ハ体羽くく用体とあくひハ体く
用用くく体とはくくんくくくくく

末は算 虫は
鳥は獸 名所と
名所又いとく名所と國乃
名ハ二句あり
七夕は伊日 ケノ乃名さ
みてあり

十三 あの隣五句物

同字 日と日 風と風
雲と雨 煙と煙 但ハ七句
隔て 野と野 山と山
浦と浦 波と波 水と水

道と乃 夜と夜 末
と末 算と算 鳥と
鳥 獸と獸 虫と虫
魚と魚 猿と猿
と と 名所過 居所と
居所 言と言 述懷
と述懷 紙と紙 紙
紙敬と紙敬 袖と袖
衣裳と衣裳 山と山
山乃名所 浦と浦乃

名所　原と松原藤原
おくのほそ道五句
かくれ笠
はるかへさ
いろをあらそ
有く

十四　可隣七句

同字　浮と月　松と
松　乗と乗　田と田
衣と袂　夢と夢
漕と櫂　舟と舟
舟字　天盤舟天竺舟
舟思山　御舟
白へうり　舟の字又

衣字　衣字の衣獄女ホ七句
為衣数　衣川　衣る　森衣の
字り五句　嘆ホ

松字　松浦　松浦ホ月
前

田字　苗　田上　作田東ホ
田ホ

乗字　乗り　乗り田乗川ホ以上
嘆　舟思衣川ホ
う嘆又
句

杭　以上皆七句
杭

十五　面八句　月十句
面　内一嘆

殺句　いろはの内外の書籍
なし流を用て
他意をもく

服白

[illegible]

[illegible]

[illegible]

なをこの河十匁のうち不二紙
計数を際限ゆへ器
森とこの白ろうとこうこと
なをこの付ものあり二匁の
合この紙屋ろう成
ゆへあり
関ろうかろうや素れと回兼いつ
生のの紙屋ろうも計数有て
十匁のうち山の廿益
りのあり
堂塔は**養**ろうて尊宮なを
殺白なをこの殺のあり眼ろう稗殺い
白ろうこの紙屋ろう不可紙稗殺の
ろうこの紙屋ろう
紙し**殺白**八毎度あり
少眠ろう紙紙紙紙紙紙
ゆへ

紙の**殺白**腸ろう人名家
去れろうこの紙屋ろう
ろうかしかの
迫**善**ろう**養**傷出の殺白あり
腸稗殺出の白ろうすこ
但時宜ろうこ
常の**云**常は殺白ろう人
古紙稗殺述
懐懐回養傷出の河とす
もこの紙ろう中あり紙面
の白ろうこ
別蓬生濃生ろう地熱
生ろう生ろう
白ろうこの屋ろう
白ろうこの屋ろう
ろう翅
打のこの屋ろう成
二白燥て小ろうこ
二も不出他准ろう

同字 面八白りうり嫌おり九白
十白めうり五白まりまり
かりもの

風 とありて
みるまて

又おもしろしの歌八白ゆ内うり
うりしりもて他濃し

面の連歌 うりいう山歌れ也 極
物隆地をひるし
の風うなり地うりていりはしこ
う流くとゆ不しをうう序
命おりれりろうすうんれく
正風祈うわうれうすし

説言の面きき 連歌うり面
白はしはは白八をれ地也とう山
流おり一向その他のゆ流ゆ紀ゆ地
名うの田舎流よりくて有名
別ゆ地位字うるの心う
ちうう
翁

面の白め

に毋とせわとりよ流おりこきと
も地位非しよおり面流おり

十六 物語 迴之う

薫 うりうり
又紀葉なしこうおうと付て
へうす毋うてこきを付てと付て牛物う
りよ心八たきりのも紀無白い
もこくうりうれといりんおり
毋うて付不しさハこくとりう
んうれハ一切う打雖う不
限乳也へおり

煩 とりうり雲と付て又山本た
りりはと節は歌不一付とうて
乳物迴 夕立 うりをを付
おり て打雖に
電 雷 うう 雷 と付
へうう 雷 と付て又
沙家日 白うり面
前地位 乳と付て作

[illegible]

遠梅廻之事　花うゝ付ける　風雲の新

[illegible]

又いとく花うゝなる梅樹有るを

[illegible]

[illegible]

十七　嫌絹うゝ　春之分

春船　春門　花の

門うゝ　花うゝ

搖末　遠搖　うゝ搖

花ゝ鶯

梅の書　紅梅

小柳　玉の小柳

花梅　梅の花

白樓　桜の樓

夏ゝ分

夏ゝ分　一夏籠る

夏草　青木立

青楓　若楓

梅の花　青梅

いさゝか不好とあれども毋ゝ用ゝ仮

螢の火　螢火　蚊火燒

蟬の声　蟬の声

物思ふ　後撰の詞書に一首
空ゆくらんとはあり
稀なるひとり　むしの音
うへの月　拾遺の詞
知門　物のあはれなるてあり
いとゝ
雁　雁　雁　雁の
萩の風　萩の
菊を　菊草
他准　花へ　やへ
花へ　やへ

有明　有明
中秋　月を
月　月
遠田　遠田
鹿の妻　鶉
衣　拾遺の詞
紅葉　紅葉
冬し
冬し
冬鶴　冬風
冬船　冬風

冬枯の道

冬梅　冬菊

鷺場

千鳥

秋時雨

山しろ

源宣和宮路　大雲

恋しく

恋ふ　恋のくれあひ

の世　ゆひすて

別る恋　我恋

立文　ハ　也　中の文　ひとり

恋妻　ひとり妻

遠妻　しのひ妻

恋ひ文

なつかしひ　ゆてゆ　思て

ゆくへもしらぬ思ひ
うた情　二首
返し又使文　使契
かつらぎ山うす契
いもうの道ともを君
ありもとわかれかたきかな
数束　ひらら雪
ゆゆくすへうきをしり

猿之分

猿や住れ　遠猿

猿すさつれ
遠道　門いて
て船　山類之分
山ゐる　山岳　源宝
山里　谷里
少山　古歌　林業

水邊之分

水音

水面　みち塩

塩くま

塩ちり　塩ちり塩ちり

うち出風

船ふね　ふれうひ

ふれ舟　舟舟　夕舟

船ふね

なくこえ　船ふねのつれ　船ハ　船ハ

小新茅　通すさ　ふ

守ひき

うち里

道　遠浦　浦人

漁ア　浦人

海ア　荒田川風

白潮川風　なとひ

潮ホ

伏見河　入江田

瀧音

池邊　浪うち

雜之部

秋山の秋風 作よの風ハ

秋の秋衣 ゆくハすゑとハ

秋すゑ

うゑ稗 市鳥

うゑ波 鴨島 かもの村 鳥なくら

神 神山 みやしろ

野風 作ゑの風

野里

野庵 庵○ 里田

遠里 をを里 小地ハ

人里

やせ里

中宮 朝顔

なく ゑの戸 をを明ゑ

桂人 世をすて人 分をすて人

背人 人ゑ

ゑを捨て すゑゑ

賜のめ

年をけりうゝかくた

分御有御ふれたまふ

ゝはハ用捨の意也

老らく 他花老らくたゝ人ハ

知れ人 すゝ衣 うゝすゝ

衣ゝ

田 田のたもたのまハ

聖田 いとまあひえぬく

なゝゝゝ 鏡 音 ものゝ

笠 雲 袖

ゝゝゝゝ

紫ゝ

ゝゝ

ゝゝ

ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

立[illegible]不可[illegible]

又上の句に嫌物[illegible]

[illegible]

きて　孫[illegible]

句　おく[illegible]

[illegible]て　同前

[illegible]上の句に

嫌の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

道のへ

志為人

入相　有明　月ハ有明ハいと

みち源　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

發句

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一順の句

[illegible]

花の句

[illegible]

鶯

鳴声

[illegible]

初鳳

[illegible]

鳥

[illegible]

海士撫子

[illegible]

春夏

[illegible]

けりと連歌は奇とうつく
しとすゝめゆへうゝ一ゆゑにこゝに
よまさるゝ事ゝ
けへうゝ

哀傷乃部　殉心のゝ紀之
みはすへゝす

笠の下又歌あるゝ人のたゝら
称のあるゝれといつゝ事又数
鳴の道ゝりゝ名ゝゝわたゝゝゝ
体又薄風九恨なゝゝゝ忘ふ
ていゝ歌又君ゝはゝへてゝ
云神賀お人差掌ゝいつれ
色不細合ゝゝゝゝゝ
ゆゝにやゝゝゝ西風新とのゝ
面ゝゝへ

哀後乃部

又幼サちゝ附の心拍乃屋ふ
すゝゝゝれせいの居ゝゝ
少へ也来ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝれゝゝ老乃部ゝ不細

合ゝ古人の遊細ゝゝゝ
ゝて知ゝい附のゝふを
ゝもゝゝへゝゝゝ紀世のをゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ紀ゝ事ゝゝ
身ハ亮ゝゝゝゝ
なゝゝ

附節に

他ゝゝ

ゝ初ゝゝ高ゝのゝふたゝひゝ
ゝゝゝかゝゝ山雲乃恒ゝの梅
ゝ咲ゝゝゝゝゝゝ者ゝ弟れ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ霜ゝゝ歌の花ハ花上
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ハ竜の物ゝゝゝゝゝ単
山郭ゝ乃一ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

百今集　新古今撰歌和歌百人一首用ゐ古に

陸奥の国にまかれりけるに、白河の関にて

武蔵路　なにはづのみつくしをわけ

わたりあふさかの山のまゆひけ

ゆ　蟬丸

なにはづにさくやこの花冬こもり

今を春べと咲くやこの花

須磨にて　行平

わびぬれば今はかぎりと思へども

別れ難き人の一言

雜歌　行平

侘ぬれば今はかぎりと思へども

別れ難き人の一言

[illegible]

[illegible]

[illegible]

関意之事

假令ば嵐
峯の竜のうれたるの
新

この樹も言をわまをせん
さいさいさいらんの山ぶしの
長雨してなかしく行く俳毎
うわうのやうにかたるを
さいさいさいらんの

わう掛物

みたかひとうこれいたてちうめ
てたきてうりぬとつ
汨ろまし共をわりむし
人ぐくてわう汨をたこ
ちひうれうこその他ちひうり
さうれのやうにやこ

花をうつす　なしに掛とも
なしとも　赤はなしとも
葉うつす　柳　柳はあをき
必はのうつり　ひかりすくなき也
鄙乃ちゑ　草に夏
体みな同　雲　雲
なしうつり　こはう
りのうつり　みなかれ
為業　柳　柳
奥あり　なをなし　みなれ
拾ん　いはう　ゑ
なしの体　同　あり

心みなくぐ　夏の
いなし　なをなし
なしうつり　みなれ
なしうつり　あり
要　なるう　紙のうつり
同なし　なし
りのうつり　なし
同なしうつり　なし
同意　行　行
奇ハあり　ひとつのうつり連
りて行　ひとわ
物なれ　奥
ものなし　ひはて同ん
ひろけう　なれ
ひんりのう　なて

十九　教自切字之事

貳　ゐれ　そりそや
ゐれや　ゐ　しさね
ゐたう　いけ　いつこ
いたれい　いくく　いさの
うゐひ　そりめり
の約
ゐれ　いあり
又下知　ゐなゑ
みかはや　ゐたり

風もゐれ　自ひゐり
筧の葉や　月人をねや
ゐりゐう　山遠しをの
新地ゐ云の忘りゐ不望
いもゐう
ゐこし　きゐ所ゐ
秋夜ねゐ　ふのねゐ不切ゐ
をゐんねや
海ゐ　物ゐ　梅いつく
ゐゐやいけ　雪
ゐれ　秋いゐく
月ゐそ　雲ねめり

[illegible]れる道　花いとし
こてふ　[illegible]
[illegible]　山の野
[illegible]
[illegible]
[illegible]を　[illegible]め
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]ん　如山なりらん
[illegible]の数
[illegible]
[illegible]　因兼以上
[illegible]
[illegible]数百名迄の
[illegible]
又面[illegible]見[illegible]ね
切字
立[illegible]峯の杉後
谷の水
花[illegible]も柳いろ[illegible]
[illegible]

二月ハ体ものうきわ
と也ゑ月ハ
人いまうしてもせ蓋ありて
ひのさりうれ蕚の葉や
なくうりうれ
白つゆハ
りしなゆへ
わくれ而紙やうの
一せ二せ
すくせ
りて別
ゆへ書
ゆり

二十 白数之事

春雨 此立白はくく
まき状の白い三白
ゑの白ハ二白いくく立白り

一白うて枝
へくく

夏 冬 椿 紙 釋
教 此一白ゑ
くくさ三白
速懐し 旧世常
立此内くく速懐く旧世常此
引答て三白すて三回ゆ多くく忘
一白くくも
乃ゑくハ
いせくく懐旧ホ
用くや

山顕 水 遇 居而ホ
此新用白
ゑくいホ
まて白数
二三白まて

人倫　二百八十八

三百八十八人倫二百去ありの

抽地　二百廿一　草と三百て

牡丹花湯の山てのこ吟

抽地三百あり　その

成へ元亀　二百去ありの

花道の花　二百八十八

牛頭　二百去ありの

ひさこ三百去ありの

廿一　本奇取獲之

事

切方の多三百去ありの

本流地沢同　二百廿一

あくこふ　二百去ありの

月　二百四十八

ひけり弱の　二百去ありの

て又岩　二百去ありの

やいこ　二百去ありの

ありうけ　二百去ありの

らんり月　二百去ありの

乃宮　二百去ありの

立知　二百去ありの

て行　二百去ありの

毋見　二百去ありの

三百　二百去ありの

三百　二百去ありの

ありう大　二百去ありの

後い弟　二百去ありの

いたづらに門うちたゝかせさむ
衣うの郷ヤ山
おなじ方續後撰集まてとゝ可
用也石とゝ集より十代也
今集に紀ちかゆきの歌ハ又近代の人
の哥なれとも古方に用へし
す近代の集他者ハ皆ハ後方
うい用ヤし 梅川院西方なの
百首他者まてい方ゝ雖
入近代集て為本方例 化
人のわまゝ〇ゝ不知方ゝ
付ハ方ゝ不可好用也依り
の幻用後奇也とゝと集ハ
紀ちり本奇の例ゝ奇乃
本方ゝ用ゝ例乃ゝ
奇ゝも関よゝ也又源氏物
ゝうい大部 也
すし 拾同 部の物ゝれ三首
へ井ゝりとゝ 部に二首ゝゝ
乃流ちり雖有此流ゝ

と集の紀ヤ他二条御家門
乃流ゝうへ門て高河ハまを
ゝへて三首用ゝ近代の千首
ゝうあひゝゆゝ宣ゝ須の
流也ゝひ乃和歌ハ
宗頂の流ゝ
い用物ゝ
ゝ
ありやまりをあ
宣ゝゝに
ゝれと此ゝ
ゝれ〇きゝ
ゝ
ゝいゝ紀を
んゝゝ
ゝゝ
ゝゝれ
ゝ有ゝゝ
ゝゝ
他ゝあ
ゝ
ゝ
ゝ

廿二　挑筆之事

先書を貴人に出して貴人掌を通
弼者ゆるしあるの後配の列
を見はからひ硯をひきかへて
やうやうとして又墨をすりて
大ぶと硯のうへにのりたるやし
あり位貴人ゆるしみ人ゆるしの礼き
うさうさうやうやうにして位ある人
あるいは墨のたらうとやえあつきをねき
ひさをとりて中をたてすりて
てをりをれさしてすりの筆を
さをとりすりをすりて垂二ふ
見るるひてうてうて
おてある懸紙をひろげて
中二枚をとり二つ折りて大略
硯のうへにのせて紙をのき
いと高のとおりにいつれ
ばうしろのうへにおくあり
ぬるをりて墨のうへ

とく中あり紙せうれ
さはさうさうひとれ
とく廻りとあたりひ懸紙を
へるとと硯のうへにのけて
とく廻りとそして下に
懸紙の大うさ中本のとうさ也
うれいの中二枚をうれ
の結のあるもうしろ
外して書中位雪月花の
義なるうきうひ書面の外に
のうもうしろ書ものもあり次
う懸紙をおりて賦とうのもの
書て両の中わりて紙や
義なる結えてうさ席のきく人
ぬきのうへにかのうの賦ぬと
宝うとと後続きてうつ
うう義なる書て又後ア書
後うと後也人のつきうれ
う紙人りの中志のを云清い
賦のやうの紙の連奇ア器

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一うの流人を殺とうくんす
題
二うの不淫戒
心うの泥を下し
三うの二を席に
あうりあり
四うの妄語
やううすべし
五の雪身むのあり而をんう
くやし
六の宗通せう人の異見へう
ちうこうつし
七の清白妄露泥と細み発表
の相違うう
八の懸紙面を疑めうむ
下し
九の五事三徳とんうけ
うんとやすくすん
十の法度孫藩
うんん

此条々ゆうくうへ題
みうくへうす策の山へうすお
ちへうへうに連をすへうにくい
のうくふうくいゆうくゆうん
すへうにる法を富か人さん
自ちあひうそしてそのまうさす
へうにすうくにうう法文宗通のう
たとうくにうう風情して拝藩
すれい引ちゆて為うくす
ありまう人か人のるい而なうい
ゆてきしあひうくすうくちう
うにすう有うも書うすあり
無変うい女を用うやうるとう
ちうくう女を真のうくたぬし
わんけのうもるうくなる
人のいうくん何い拝合あり
又すうくうてうけうくるくもに
そのゆうくうう
又時宜は変うう

善人値遇
世数為媒
不耕定疏
世尊有願
自他佛性

いろ〳〵に和回の[illegible]
りのあり

廿三 一座法[illegible]

教白 一座奥[illegible]
築山をはの[illegible]
景のそのま[illegible]自分の他意奥
わ〳〵りのあり教白 脇并三の
仕やう山〳〵[illegible]
あと[illegible]
入

脇白 八教白[illegible]
[illegible]
他[illegible]

并三 八教白脇の心と物
[illegible]の投[illegible]

とい[illegible]
すら二[illegible]
う[illegible]
[illegible]
欲

いれ[illegible]世鳥
[illegible]教白[illegible]
[illegible]
奴てはな[illegible]
せ蓋[illegible]

[illegible]弟[illegible]
[illegible]八釈教弟[illegible]
[illegible]

釋教 白 釋教の白[illegible]
逐懐〳〵 [illegible]
合て[illegible]
逐懐[illegible]

[illegible]

逆懐に用せ常衰陽

逆懐の同行もまた立白懐也大事
[illegible]

逆懐

懐問も同[illegible]
有用懐

憲と逆懐とひとしき
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

裏ハ一順　面の一順を第乃
[illegible]
[illegible]
[illegible]

うの俗ことばに美醜なくして不論
今その位ことばに早苗なくして人
留その位ことばの新しくして人の目
に作やし 終日の如く係おもくして
ことばされば人の心をうれ
中に雑る禁忌おせねやうに
そこ〳〵なる山へ〳〵こうる雑談
る吟西方中さかり〳〵陣所
乃雑儀こうもく人見るこ向声
といこう吟〳〵とへ〳〵迷系月
他ことに心をこうはくひ新こうわ
ひたさけ所数こ一歩〳〵三年中
るをこハたくうこ出て人の年
こうこうて心をうこうすこ又
むこうこうむこうして雑事にこひく
ゆくるこ中 扇をこのまこう
ひくこそたくひわこうの人ま
てもあのこさまのこるは文
くこめれこうこうて出こうこさハ

用捨あくへし 上張紙 紙也
此乃ハこうひこと 発島のこ書こう
うこ心をこ千里 の外こうこう
すこしこうこ 指こつめ
こうこ中こ 人の用こう
こうこ年にこうこうこく
加こハこうやこうあ 人の白
他こを以て 所あこへ所やこう
くれハこうこうこ 所こ
こ乃ここ 拙く一物 わこう者
るこう上こ 人の素こうこさ
こ中こりの 所こうこ
下こう有 文 所こう
河なこ 和ここ 所こう
をこここ 言
こここ ひここ
ここ わこ
こ年こ ここ
慇懃なこ 祝
二度こる

孔侯あきくらしてしかしかの
ありて指合をとらへうすれば
一度の宗遊者人なりしかの
事也自然とあるかの孔侯
そなたのうちの人のうちとうへ
を肖て[illegible]ありてうかがひてうかがひ
してまうのうちとうへ
きうとも知へうす秋のうち
人の付ばかりんこの兎毒をとこへ
うすきうるとも歌と吟すへう
をそのうるハとを関ケし兎毒
ゆしてて雪月ねとぬ事
又いさをたさ石のうちとて
りへはそのうちき行こ川世門
ゆの馬車ありしかうひとう
行の鶴石沼るへ和無ちうつ
うかまうううう初ん付まうひ如
しも遠ちうして嘆行りち
ゆうう学ん頭とひさすう嘆へ
わうを和方の遊ちれハ作よう

ぬやうかとい心也博学の胸
うちうかりうきうの行ひひされ
しまうとはりのうち行られ
ゆうとはのあうしやうのの
一夜雷まも出ぬあんの対ハ
ゆ所くあうくうくうれハ気
寶うしに仰り奥あううの所
又はうしとうとうし学る時
るなくのやうるうのを毎
夜うつうまうり例のえ
ぬよるくいえれていかうき
くのあり行うはあてを
心のあうさうれくたれと
仰ハあうせをひてうあ
すとうへなうおうんん
ハ絶遠云も大うはう
まうかの自て年もうれ
うるうんハ新自るハ
ぬく海ゆ心うけれハ
しき対ハとうとうめうう

句を作けるに[illegible]
[illegible]
[illegible]

色い衣うつ混紅し九うたの中なる時し衣数り二句嘆へ

一 雁 衣数うさ永い憑 一切うくさらへ

霜頭 ハ馬 霜ともに水うすうすす

霜降地 霜降地 霜降地 霜降地 霜降地 霜降地 霜降地 霜降地

鰥ハ獲 鰥ハ獲 鰥ハ獲 鰥ハ獲 鰥ハ獲 鰥ハ獲 鰥ハ獲 鰥ハ獲

一雁一句物

鶺鴒 鶺鴒 鶺鴒 鶺鴒 鶺鴒 鶺鴒 鶺鴒 鶺鴒

月の　宮　宮居うつ　神紙うつ　一又
白紙の名　紙の名　紙うつ　紙
二ツあるも　名なり　紙
一ツなり　名なり

白地うつ　暫折

花　雪玉　雪　いつれも　色なし
花の名　雪の名　雪の名

立白物　一ハ面とうつ　所
作なり　うつ

世　梅

春雨

新正　歳の首月也

叙氣　氣の名也　やりうれう
体なり

管律　黄帝作律とうし

貢茶　茶なり

絮　柳の名也　腹笥
花の心　白前
なり

紅

蹢躅　躑躅草とも也

菅草　若草也

燒痕　野の燒原とのこ
なり

鷓鴣　しゃこ　山栗　ホの
茶なり　栗也

蜂　う依て蜂飛

夏部

秋線 秋掛用ゆる也 清和月の也

霖 もなのる也

黄梅 梅のる也

黄毎 黄梅用節の毎也

白毎 木の葉 麦秋 麦の穂

ゆる也

蘆風 ひつじさるの風也

緑部

初源 初源用ゆる也

猿暑 初秋用ゆる也

金氣 秋の金の氣なる也

爽 秋のさわやかなる也

懸鶉 衣のる也 辛扇

わびしさ〳〵 笠

黄柳 秋の柳 筋投 秋也

盃嘉 九月九日用ゆる也

冬部

凍柳 冬の柳 枯 草木

凍蝶 冬のる也

生極うう嘆

探梅 早梅心あり

玄信 玄信来あり

爆弁 爆弁 驚鬼

雷歳 なりなり 雷のなりなり

なりなり 雷のなりや

なりなり

山新

雪山 天竺大雪山八地山新 但雪の降る山八角海

山新地 由山 山新あり

炭竈 山新 炭と竈は

山新あり 山新あり

水島

湖境 只湖のうち地 潮

水曲あり

一絃 絃を通あり

約 月約地 筆海 地を過

隈地 月前山新これあり

釋教

禪 禪師

楊 楊枝

狂師 乃狂師

完入定

住僧

遠壞

名利 名と利とを重ろ

蕊 世のこと也

蓑親 白頭 孫孫 老

狗名 隱 逃 退

疎業

憲親

帛 しの

帛 ぬのこと

侍 さむらひ

國怨 御 水仙

曉粧 伐 染紫

義人

別字 但兄ハ白ろろ

鴛鴦 おしどりの事也

鴛鴦衾 古衾

古枕 振 鏡 ひケ条ニ云ふ

紙ひろへて云ろ

なろへき歟

昭陽人 揚貴妃 如此

もろ〻云ろ

又治百首ろ入紙歟

振親

信 書作貝字 宮 妃賓 宮 賓

賓振ろ

遠 遠

夢 一葉 力

漂泊 船の心なり 征人
古山 泊まる 所に依る所
人倫
云侯 泊 子 男 笠 恩
又本の孫侯 士 妻
なり
竹と人倫なり人のなかの人倫
なり
帝王
師弟
松菊 朋友 妻 笠
人倫なり
文体

顔 髮 如此の数人倫なり
生頭 殖
梅暦 梅暑 葉 面
香酒 菊花酒 桃花
酒 桃花酒 笠 生殖
露林 拾枯 伐木
蘭杖 桃花馬
桃簟 桃花粥
蓼蓼 嚼瓜 葉
合蘭 燒香 笠 生殖 水花

地形分類
被 晴書 春如夢
胡蝶夢
付句可嫌抱
玉章と紅偽と眞
句と別 句の数 如と等
与と兼 如と於
是と新 可と意
青と孫 茶 茶
白と素 他准し

嫌打越 連歌ニ如ク
樵夫と木字 顧と
見字 如此し数也
二句の隔抱
月と日 日と星 如此天象
之句嫌如ク二句
朝と夕 曙と紅 如此暫
分 雨と露 霜と雪
如此隔抱
乃ち 鳥と獸 虫と鳥

山人 山賤 頌 竹と草と木と草 山賤 草

人倫と人倫の同連の

遠と近 同前

三句の隔句

山類と山類と山類

山と山と山

山と山と山ハ

水邊と水邊と水邊

海と江と海と江の同連

秋分と夜分と夜分と昼と昼

草と草と草 草 草 草 草 草

草と草と草 草 草 草 草 草

草と草と草 草 草 草 草 草

句数之事

春 妹 連方の夏冬日

庶 墨 紙 筆 敷

振 物 連懷 山類

水邊 居 所 所

生殖 中 歌 路 物

浮 地 人倫 衣類

以上連歌の

和 人名 以上之歌二句後也 国名

十句之間 稀不制之

物 以連歌

不祥字 人名 以上之歌

一座で一句の内八和漢ともに

なかへし

花二本完 自余景

地も和日ともに

和漢ともに

百韻 漢又十句 和又十句

なかへし 但百懷低で多か

聯句で休用 乃ち此流

あらためすべし 休用也 元の

みなかへし 五十年以来法

有し

和漢で 単句 一の為漢漢和

如白之十二紙厚和未そろ
ひ之伊呂波四写之部以下ハ
悉抄し
右此篇ハ紀するかハの寺
連歌新式目し法度者也

此上下巻去天正七年
ゝりニて書ハ書ハ
是を記ス同十四年
益々ハ
を紹巴法眼の授ハ
へかゝやまとゝ
て再三接合をし
頼重を寄り用捨
の河を
きと風雅ハ
衣の
まりて十有余年疎

奥のすみとに其後
巴光山書を書き
さいく親さらに慶と
あひまもりかの
まり二さうひ函庫
をいくしに其中書を
又源江奇校閲ある
半数百年時僧人
竊ゝ奥を写し自
流布すとさく称さ
ものさいく又孫未逆の籠間
本願ゝ慶長改化

の新書を開みい志し
て年正月上南ゝ
清書しに二三ゝ
ゝへくいくゆめく
他見すゝるゝれと
親門ゝへくい其理
智をもまれ儒道ふ
赴くいさ德行を敬
ゝ君ゝい忠とい
ゝ親師ゝ孝を
作ゝ聖ゝゝゝゝゝ
宰予ゝ晝寢

[illegible]の[illegible]て時日を
[illegible]さんもあるべき
の心の[illegible]あへぬる秋の
葉ふり[illegible]て日[illegible]の
[illegible]に
ていはゆる[illegible]の富士
[illegible]く[illegible]遠く遊て
も顛倒する妄念を
[illegible]和尚
[illegible]きいふ
[illegible]へ天正元仲
冬上の五日小世[illegible]て

山より入[illegible]瑞巣淑水の功
一十三年寺社[illegible]遊
八十一宇高野住山
の星霜坎立天齢
すでに六十二の春榆
[illegible]く
かりんこの毋高野へ
定の層数[illegible]
[illegible]世の[illegible]一[illegible]
[illegible]一息の[illegible]
[illegible]結の[illegible]世生[illegible]
裏のあとより繋拙恋

生のうつし一驟よりて
きわ〳〵しく山一無女角
年いとおもう弗恒や梅
の立枝うつる白ひいろく
長しなり乃色をうつす
ゆきうつり霊夢にうつり
きうめて筆をとる也
と又清書轉輪のお
のき霜ふみくだく葉
ハ露のめくみをうけとる
夢想あり夢に於
うつる夢に何

深稿のあやうれ
をもうつりの〇うつる世に
なりきふりの山にすむ
と新書をうん何いうつり
ぬ〳〵一日のたのし
き〳〵一念のさとり
なりひとへに勸善懲悪
悪の所をうつすなり
へうす洛陽東山大
佛殿奥院樹下に
て慶長二年四月
廿八日書し世間

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

言葉のみ[illegible]

法華経[illegible]

南山[illegible]食[illegible]門

此言葉をきゝて

末代の衆生なれど

真山上人のみかの海

より和尚の浦より常

久しうをさ大師まつりを

作り御當家の心を

わすれ給ふ金堂大塔

をも和尚[illegible]作造り

里来る[illegible]も[illegible]世

利大佛供養の後

[illegible]山[illegible]紀家[illegible]

[illegible]り風雅の道

を紀すべきなり故に紀ふ
わざを聖武天皇の
御時に始まる婆羅門僧正
行基菩薩弘法大師玉河
の流を汲みしかりしかの人
河内遍照の筆蹟
者なり紀ふ
作者を記したれ
ども品なし
なるべしや此
民の他に筆者

實を作へ斷ずるの
ゆえなるべしてい
むのこと何ぞ
の御志のありさま
ゆえを知すべんや
ゆえにつりを
ゆえにして書
れ河多書物也
慶長三年
二月廿五日法眼紹巴

以垂言教之他意著
兩奥書庄之不急
被　穀覽御感不
斜　加写留之仁
勅定濃筆著也
慶長三年
二月親王宣性

世尊抄々以題世
被深　勅筆下毎
大覺寺殿二月親王御
奥書也一覽之次
上人依不堪紀之旨
慶長四年
非世尊月上旬
法眼紹也　京判

此一紙　禁中へ同
じ上
勅定なり老筆を汲
きくもかつ〳〵もかく
天子へ奉進献本とうし
と先達文自分接合
し仰ひむこの繪巻が
敵道寺梅本坊先達
行者振而也又如此
奥書をとゝへ〳〵を
法井てうひひ
いかのはやとの

暁夏天もとうひうて
ともかく拝れとのこ
おほゆきて告所へ添
ちうり
みきいうとり拝ゐ
いて入いこのう郷ほうを
世言教のかうるへ
留ゆへ誠之

慶長八年正月十四日

末食興山上人庵真　郷判

芸亭抄卷之下

一